

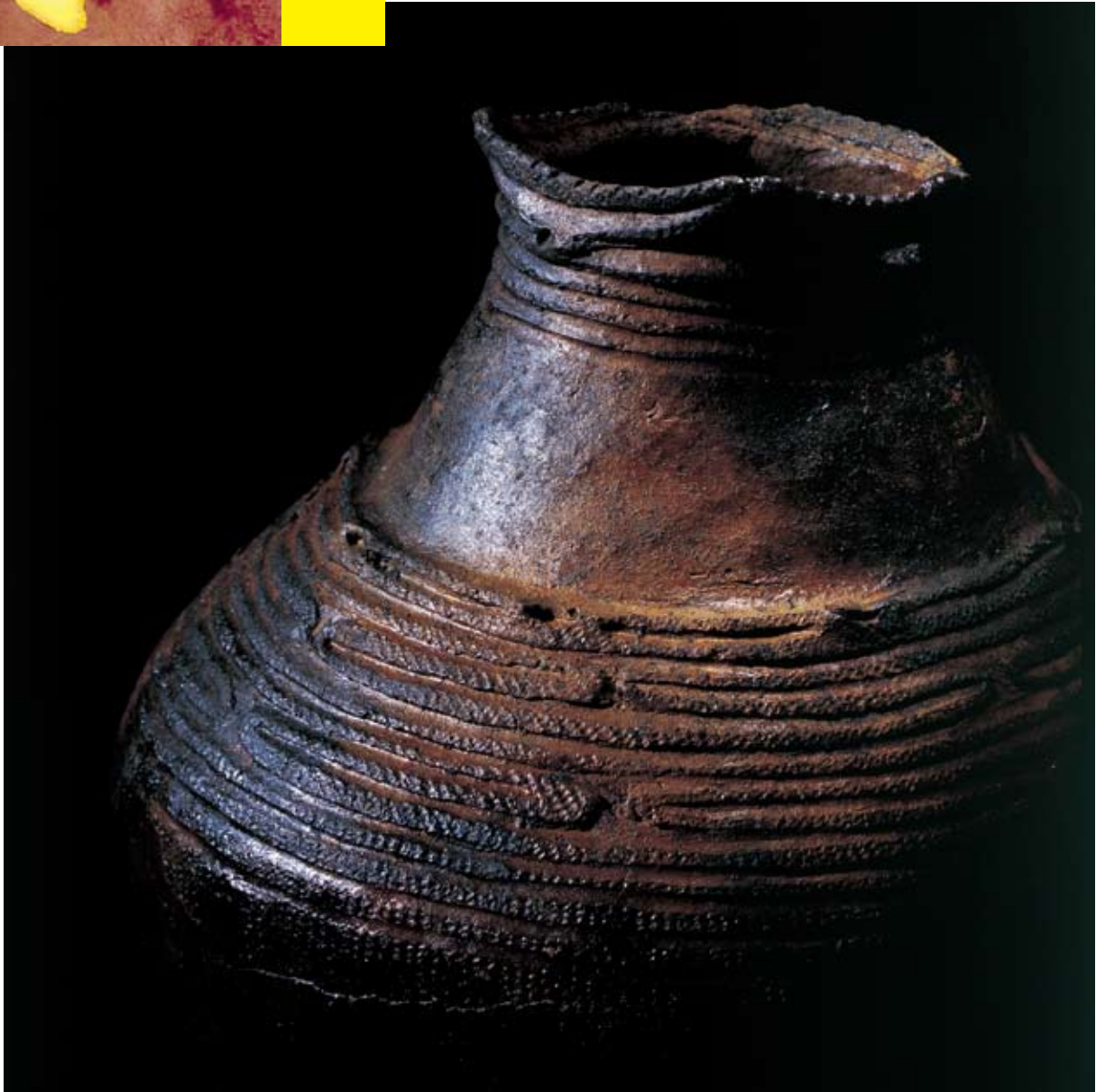


[teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



千歳市祝梅川小野遺跡出土の壺（縄文時代晩期）

- 平成19年度発掘調査概要 2
- 平成19年度の調査 3
- 資料紹介1 二つの注口土器 4
- 資料紹介2 釧路町天寧1遺跡出土の骨針 5
- 資料紹介3 北斗市館野遺跡出土の土製品 6
- 表紙解説 千歳市祝梅川小野遺跡出土の壺 6
- 平成20年度調査予定遺跡 7
- 江別市対雁2遺跡の年代測定値のこと 8

○平成19年度発掘調査概要

今年度は道内10市町村に所在する19遺跡で発掘調査を実施しました。このうち10遺跡は先年からの継続調査です。以下、調査の成果を時代、時期順に紹介します。

旧石器 白滝遺跡群では5ヵ所の遺跡を調査しました。すべての遺跡で多量の遺物が出土しています。それらは遺物集中範囲ごとに平面的に分離することができ、いくつかの時期の重複を確認することができます。石器群の中には、石刃技法のもの、舟底形石器を特色とするもの、尖頭器を特色とするもの、有舌尖頭器を特色とするもの、側縁鋸歯状の小型尖頭器を特色とするものなどがあります。キウス5遺跡では、オショロッコ型の細石刃核を含む細石刃石器群が検出されています。祝梅川小野遺跡では細石刃が5点認められました。館野2遺跡では頁岩を素材とする少数の細石刃が出土しています。サンル4線遺跡では、珪質頁岩とみられる石刃素材のスクレイパーが出土しています。

縄文早期 下幌呂1遺跡では浦幌式土器に伴って石刃鋸石器群が出土しています。ここでは中茶路式土器の時期の竪穴住居跡、土坑墓、土坑も検出されています。虎杖浜2遺跡ではアルトリ式土器、中茶路式土器が出土しています。穂別D遺跡では、東釧路Ⅲ式、コッタロ式、中茶路式などの土器が出土しています。

前期 虎杖浜2遺跡では、最大厚40cmほどの盛土が検出されました。この盛土遺構直下の土坑墓2基には、いずれにも装飾品らしき漆製品が残片的に認められました。砂が密に堆積しているところ、粘土の集積もあります。土器は静内中野式、円筒土器下層a式が多くみつかっています。西島松2遺跡では植苗式土器の時期の竪穴住居跡が検出されています。祝梅川小野遺跡では、植苗式土器の時期の竪穴住居跡、土坑が検出されています。住居跡周辺の土坑からは手のひら大の粘土板が40点ほど出土しています。

中期 サンル4線遺跡では押型文土器が検出され、珪化岩の礫、石核、剥片、碎片が多量に出土しています。石核、剥片の接合状況は、ここが剥片剥離、石器製作の場だったことを示しています。館野2遺跡のB地区とC地区では、円筒土器上層b式土器、サイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器、大安在B式土器などの時期の竪穴住居跡、土坑、焼土、集石などが密集して検出されています。これらの土坑には、墓とみなされるもの、フラスコ状のもの、埋設土器を伴うものがあります。キウス5遺跡では、天神山式、柏木川式などの土器型式の時期の住居跡、土坑、焼土などが密集して検出されています。焼土の多くは被熱が著しく、列状に並んでいます。さらにここでは、平成8年の発掘で「柵列」の可能性があると報告した「杭穴」に類似した小土坑が、列状にみられます。矢不來9遺跡では竪穴住居跡、土坑、焼土が検出されています。この住居跡は、6ヵ所の柱穴が明瞭です。梅川4遺跡A地区では、柏木川式土器の時期の竪穴住居跡が検出されています。梅川4遺跡C地区では、北筒式土器が出土しています。下幌呂1遺跡では30mを上まわる広がり盛土が確認されていますが、詳細は、次年度の調査を待つこととなります。

後期 祝梅川小野遺跡では、土器（タブコブ式）囲炉のある竪穴住居跡、中葉の時期の竪穴住居跡が検出され、ウサクマイC式土器、鯨潤式土器、堂林式土器などが多く出土しています。加曾利B式の特徴が明瞭な注口土器の完形品も出土しています。穂別D遺跡では石囲炉、土器囲炉が検出されています。館野2遺跡B地区には、涌元式土器が集中的に出土する区域がありました。下幌呂1遺跡には、北筒Ⅲ式土器の時期、鯨潤式土器の時期の竪穴住居跡がありました。このうち鯨潤式の住居跡のひとつは、出入り口部分が明瞭です。西島松2遺跡では中葉の時期の竪穴住居跡が検出されており、2軒ともに出入り口部分が確認できました。梅川4遺跡A地区では、中央に地床炉のある4本柱の住居跡が検出されています。

晩期 梅川4遺跡A地区では、後葉の時期の竪穴住居跡、土坑・土坑墓、土器集中、石器類の集中が検出されています。祝梅川小野遺跡では、竪穴住居跡、土坑が検出されています。土坑のひとつには、壺形土器が倒立して埋設されていました。この土器内部はほぼ空洞で、口縁部近くに黒曜石の大形剥片が認められます。西島松2遺跡では、後葉の時期の土坑墓・土坑、焼土などを多数検出しています。これらの遺構は、昨年度の調査区域から連続して分布しており、なかには遺体が痕跡的に残存しているものもあります。この時期の土器、石器も多量に出土しています。オルイカ2遺跡ではタンネトウL式土器が出土しています。

続縄文 対雁2遺跡では、前葉の時期の土坑、焼土が検出されています。梅川4遺跡B地区では、前葉の時期の土器が出土しています。

擦文 穂別D遺跡の竪穴住居跡は、貼り床で、中央に炉、東側にカマドがあります。この床面からは甕、杯、鉄製品が出土しています。キウス5遺跡では竪穴住居跡、土坑、粘土集中が検出されています。西島松2遺跡の竪穴住居跡は、一辺が5m規模のものと、一辺が2m規模の2種類あり、すべてカマドがあり、煙道は東あるいは南側の壁にあります。9軒は柱穴が竪穴の外にあるカリンバ型住居です。祝梅川小野遺跡の竪穴住居跡の内ひとつは、カリンバ型住居とみなされるものです。

アイヌ文化期 祝梅川小野遺跡では、平地式住居跡、灰集中、柱穴、道跡などが検出されています。住居の壁際には棒状の小石が40点程まとまって出土しています。穂別D遺跡では柱穴、焼土の周囲から鉄製鎌、鉄製針、銅製品（形状不明）、土玉などが検出されています。西島松2遺跡には、鉄刀などの鉄製品が副葬された墓坑があります。ともに伸展葬を想定できる墓坑の大きさです。梅川4遺跡のB地区、C地区では道跡に沿って、柱穴、焼土などが検出され、キセルの雁首、クギと見られる鉄製品、陶磁器片が出土しています。

○平成19年度の調査

北斗市矢不來9遺跡

遺跡は、北斗市の市街地から南西方向に約6km、函館湾から約900m内陸の、標高60～65mの段丘上に位置しています。矢不來の地名を付した遺跡は、14カ所がすでに登載され、このうち矢不來6・7・8・10・11遺跡が、平成17・18年度にセンターによって調査・報告されています。今回矢不來9遺跡で調査した遺構は、竪穴住居跡（縄文時代中期前半）2軒、土坑20基、焼土21カ所、集石1カ所です。このうち1軒の住居跡の床面では、焼けた粘土が板状に固まって検出されました。遺跡全体の出土遺物は土器（縄文時代中期前半・後期前葉）・石器等が25,000点です。調査区の北西側に後期前葉の遺物が集中しており、次年度の調査範囲にも及んでいると考えられます。



矢不來9遺跡



サンル4線遺跡

鶴居村下幌呂1遺跡

遺跡は、鶴居村市街地の南10kmの釧路湿原北西縁辺部に位置し、雌阿寒岳外輪山から南東に向かって釧路湿原に注ぎ込む標高14～15mの幌呂川右岸の河岸段丘上に立地しています。

遺構は、竪穴住居跡11軒、土坑26基、焼土14カ所、盛土1カ所がみつかりました。このうち縄文時代後期中葉の竪穴住居跡の床面からは、鯰潤式の小型注口土器が倒立した状態で出土しました。

遺物は土器、石器が約2万7千点出土しました。土器には縄文時代早期後半の浦幌式、中茶路式、中期後葉から後期前葉にかけての北筒Ⅱ・Ⅲ式、後期中葉の鯰潤式、晩期のものがあります。石器には石刃鏃・石鏃・石槍・石刃製彫器・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃核・石核・石刃・石斧・矢柄研磨器などがあります。

下川町サンル4線遺跡

遺跡は、下川市街から北北東へ約4km、四線沢川がサンル川に合流する地点の南側にあります。今回は、主に丘陵の斜面部分（標高162～167m）について発掘調査を行いました。

包含層の調査では、珪化岩や黒曜石の剥片・石核が比較的まとまっていたところが4カ所ほど見つかっています。出土状況等から、いずれも縄文時代の石器製作にかかわるものとみられます。

出土した遺物は、土器約200点、石器等約8,500点です。土器には縄文のほか、押型文の施されたものも認められます。石器等の多くには、遺跡の近くで得られる珪化岩が用いられています。この他、石刃を素材としたスクレイパー（長さ16cm）など、旧石器時代の可能性がある遺物が数点あります。



鶴居村下幌呂1遺跡

平成19年度発掘調査一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)
札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	キウス5	千歳市	6,100
		オリイカ2	千歳市	4,200
		梅川4	千歳市	8,655
		祝梅川小野	千歳市	7,630
石狩川開発建設部	石狩川改修工事の内対雁築堤工事	対雁2	江別市	150
		館野2	北斗市	6,707
函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	矢不來6	北斗市	587
		矢不來9	北斗市	2,030
		矢不來11	北斗市	246
		館野	北斗市	整理作業
旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	サンル4線	下川町	4,200
室蘭開発建設部	登別抜幅道路改良工事	虎杖浜2	白老町	1,590
釧路開発建設部	釧路外環状道路改良工事	天寧1	釧路町	整理作業

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)
網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路工事	ホロカ沢Ⅰ	遠軽町	4,331
		旧白滝1	遠軽町	2,800
		旧白滝5	遠軽町	2,260
		旧白滝15	遠軽町	4,670
		旧白滝16	遠軽町	1,821
		旧白滝5ほか	遠軽町	整理作業
石狩支庁 (札幌土木現業所)	柏木川改修工事	西島松2	恵庭市	8,779
		西島松2ほか	恵庭市	整理作業
胆振支庁 (室蘭土木現業所)	道道北進平取線交付金B(交安)工事	穂別D	むかわ町	4,154
釧路支庁 (釧路土木現業所)	道道釧路弟子屈線交安1種(総合)工事	下幌呂1	鶴居村	610
合計				71,520

○資料紹介1 二つの注口土器

2007年の発掘調査で、鶴居村下幌呂1遺跡^{つるいむらしもほろろ}と千歳市祝梅川小野遺跡^{しゅくばいがわおの}から、完全な形の注口土器が出土しました。いずれも縄文時代後期中葉のもので、祝梅川小野遺跡の土器のほうが幾分古く位置づけられます。以下、道東と道央から出土した二つの注口土器を紹介します。

下幌呂1遺跡の土器は、「鯨潤式」と呼ばれるものです。竪穴住居跡（H-5）の壁際の床から底面を上に向けた状態で出土しました。高さ5.0cm。やや扁平な胴部の両側に口がついており、それ以外に口はありません。片方は急須の注ぎ口のように先がすぼまっています。もう一方は口が少し広くて把手のようにも見えますが、中はつながっています。液体を入れる口でしょうか。この土器を上から見ると中央部に小さな突起があり、両側の口と直交する位置にも同じような突起が付いています。胴部にはこの時期の特徴である摩消縄文^{すりけしじょうもん}が施されています。この土器の場合、全体に細かい縄文をつけたあと、2か所の口と突起を基点にして沈線で幾何学的文様を描き、余分な縄文を磨消しています。把手のように見えるほうの口縁と付け根の部分には細かい刻み目があり、鯨潤式の特徴をよく表しています。（第2調査部第4調査課課長 工藤研治）

2007年初秋のある日、祝梅川小野遺跡^{しゅくばいがわおの}の発掘調査で作業員さん達の間から歓声があがりました。注口土器のほぼ全体が土の中から現れたのです。土器は底部を上にもむけた状態で出土しました。周辺部を慎重に掘り下げましたが、掘り込みなどの人為的な痕跡は見つかりませんでした。

高さ14.5cm。胴部が算盤玉様に張り出す器形で、下膨れの注ぎ口がつけられています。口頸部と胴部を別々に作り接合したのでしょうか、その部分で割れていましたがほぼ完形です。器面は幾分風化していますが、本来は全体が丁寧に研磨されていたことがみてとれます。これは今から3500年ほど前のものです。土器を特徴づけている細い施文具による集合沈線文とC字形や弧線文および円形の点を組み合わせる文様構成は北海道ではほかに見当たりません。日本列島を広く見わたすと、この意匠は関東地方の「加曾利B1式」にそっくりなのです。たとえば茨城県稲敷市（旧江戸崎町）椎塚貝塚出土の注口土器は古くから知られている著名な資料ですが、この土器の文様要素や構成の基本は祝梅川小野遺跡のものと同様です。千歳市キウス5遺跡にも集合沈線文による文様のある注口土器があります。この2点はいずれも搬入品と考えられます。

（第1調査部第2調査課課長 遠藤香澄）



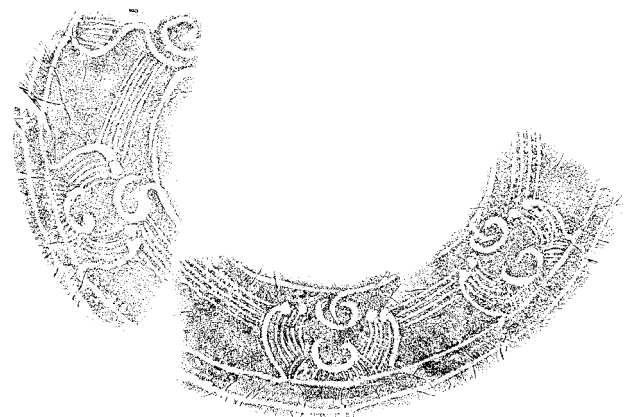
下幌呂1遺跡土器出土状況



下幌呂1遺跡出土土器



祝梅川小野遺跡出土土器



祝梅川小野遺跡出土土器拓本

○資料紹介2 くしろ てんねる 釧路町天寧1遺跡出土の骨針

皆さんは、最近縫い物をされるだろうか。生活に身近で、必需品である縫い針の歴史は、2～3万年とかなり古い。約2万年前のヨーロッパ・ソリュートレ文化の各遺跡や、約2万8千年前の中国・山頂洞遺跡から見つかった骨で作った針などが最も古い例となる。日本列島では約1万年前の縄文時代早期以降、鉄製の針が普及するまで、北海道から沖縄までの広い範囲で、骨や角で作られた骨針が見つっている。骨針は、直径0.5cm以下の棒状で、針先を鋭く、針頭には糸を通したり、絡めたりする孔や溝をもっている。つまり、基本的な形は、現代の縫い針となんら変わらない。

平成17・18年に調査を行った釧路町天寧1遺跡からは、縄文文化後期前葉（約3700年前）の貝塚や盛土遺構などが見つかかり、骨や角で作った骨角器が多数出土し、その中には骨針も含まれていた。骨針は、破片ともなると、ただの細い棒としか思えない。しかし、よく観察すると、針頭はすこし平らにして糸を通しやすくし、表面も丁寧に磨かれて光沢を持っており、縫うときに引っ掛かりがおきないようにされている。天寧1遺跡から出土した骨針は103点、完全な形で残ったものには長さ9cmのものがある。ほかは、折れて発見されたものが多いが、長さ8cmほどから最大11cm以上のものがあった。現在の鉄製針の平均長が4.5cmと言われるから、かなり長い。

さらに、断面の形に注目すると、①円形（写真左側6列）、②楕円形（中央5列）、③方形（写真右側7列）のものに分けることが出来る。円形タイプは、鹿角を素材としたしっかりとした造りのもので、厚みがある素材を使って、削りだして作られたと考えられる。長いものも多いので、厚く固いものを縫うのに使われたのかもしれない。楕円形タイプと方形タイプは、哺乳類や鳥類の骨を素材にしている。方形タイプはより扁平なものが多いので、薄さを求める形だったと思われる。楕円形タイプは、入念に磨かれていて、一番数が多いので、使い勝手のよい形とされたのかもしれない。

骨針の材料は、鳥骨が最も多く、次いで陸獣骨、鹿角となる。鹿角の場合、厚い部分を切り分けるので、形の自由度が高い半面、幅や厚さを削って整えなければならない。それでも3種の材料を使って骨針を作る理由としては、多様な形や長さ、強度が必要だったためで、現在の針と同じように縫う対象によって多様な針を使い分けていたのであろう。

針頭には、石錐を回転させて開けたと考えられる円い孔がある。針孔は、そこに通す糸より若干大きく作られるが、今回出土した針孔の直径を見ると、最小で0.7mm、最大で1.8mmの細さであった。現在の針と比べてみても、繊細な糸があったことが分かる。繊細な糸があったということは、緻密な布もあったということで、当センターの調査で見つかった恵庭市柏木川4遺跡出土編み布（調査年報20）の存在などから、高度な服飾文化が展開していた様子が想像できる。

このように、小さな針でもよく観察すれば、あまり残ることが無い縄文時代の布や服のこと、さらに縫製技術なども解明できるかもしれない。なお、天寧1遺跡の詳細は、今春刊行された報告書（北埋調報254）を参照願いたい。

（第2調査部第4調査課主任 福井淳一）

参考文献：『日本縫針考』、渡辺滋著、昭和19年、文松堂出版、『ぬい針』、岡田敏雄著、昭和42年、朝日書院



くしろ てんねる 釧路町天寧1遺跡出土の骨針（原寸大：左端の長さ 10.6cm）

○資料紹介3 北斗市館野遺跡出土の土製品

北斗市館野遺跡からは、これまで北海道では類例のなかった縄文時代後期の土製品が出土しました。

この土製品は、後期初頭（約4000年前）の涌元式土器に伴うもので、盛土遺構からはほぼ完全な形で出土しました。頭部には二股の太い角が取り付けられ、小突起の付属もみられます。鹿角を模したと考えられるその形状から「双角状土製品」と仮称しています。

底部には複数の孔があげられ、紐で何かに固定し飾りとして使用されたものと考えられます。赤彩の施された破片資料も出土しています。

このような土製品は現在のところ個体数にして6点確認されました。

類似の土製品は、岩手県の大船渡市長谷堂貝塚、北上市臥牛遺跡、一関市（旧花泉町）下館銅屋遺跡で出土し、稲野裕介氏により「従来の土偶とは区別されるもの」として着目されていることが知られます（稲野 2002）。

（第2調査部第2調査課主任 富永勝也）

引用文献：稲野裕介 2002「岩手県 2000年度 土偶情報」『ストーンサークル』第5号 青森遺跡踏査会



北斗市館野遺跡出土土製品（平成16年度調査）

○表紙解説 千歳市祝梅川小野遺跡出土の壺

今年度の調査で縄文時代晩期後葉の土坑が50基ほど発見されました。土坑は径が1m前後のもので、そのほとんどが墓と考えられます。このうちの1基（UP-56）からは壺形の土器が倒立して出土しました。土坑は長軸112cm、短軸73.5cm、深さ51.5cmの不整な楕円形で、ほぼ完全な形です。土器内部は空洞に近く、肩部から頸部付近には大型の黒曜石石器6点が重ねて納められていました。

壺の大きさは高さ42.8cm、肩部の最大径33.8cm、口径10.5cmです。口縁部の4つの山形突起のうち2つが欠けています。頸部は幅広の無文帯があり、肩部には、この時期の土器型式の特徴の1つである、漢字の「工」の字に似た文様が沈線による凹凸で表現されています。肩部から底部にかけては縦走する縄文が施されています。

黒曜石石器の最大のもの長さ11.8cm、幅9cmです。石質は黒色半透明で、縞状や雲状模様が入ります。似た特徴は道東の白滝や十勝の黒曜石にみられます。角礫面が残ることから、原産地の露頭近辺で採取されたものです。刃こぼれが観察できるので刃物としての使用や石鏃などの石器の材料と考えられます。

遺跡に近い馬追丘陵の縁辺部に位置する長沼町・由仁町でも、これに類似した倒立する壺が出土しています。これらは乳幼児を埋葬した「土器棺墓」と推測されています。また、黒曜石石器が壺の内部より出土した例としては、余市町栄町5遺跡があります。



土坑（UP-56）から出土した壺



壺に納められた黒曜石

○江別市対雁2遺跡の年代測定値のこと

江別市対雁2遺跡の発掘は1999年に開始し、2007年に一旦終了しました。発掘の年度毎に、順次調査報告書が刊行されており、2008年3月で10冊目になります。標高8m以下に縄文時代晩期後半の時期の生活面、土坑、焼土、焼石などが多数見つっています。ここでは高精度編年の基準となりうる良好な年代測定値が多数得られていますので、そのひとつを紹介します。

2005年に調査したP-179（縄文時代晩期後葉の大洞A式土器の時期）と呼称している土坑には、焼けたクルミ殻が多量に残っていました。図1、表1はこの土坑から得られたクルミ殻20個についての測定値です。図2、表2はこの土坑のクルミ殻1個を20点に分割して、それぞれを試料にしたものの測定値です。

この土坑のクルミ殻は、すべてある年の秋に実ったものと考えられ、ほぼ同じような数値になるはずですが、考古学的には最良の試料です。しかしながら、年代測定値はこのようなバラツキを示しているのが実状なのです。

2003年春に、国立歴史民俗博物館の方々による弥生時代の開始年代が500年ほど早まるという問題提起がありました。これについて、私は北海道埋蔵文化財センターが調査した諸遺跡の年代測定値から、土器付着炭化物を試料とした年代測定値は、クルミ殻や炭化木片を試料としたものよりも古い数値を示すものが多いので、国立歴史民俗博物館からの新説には解決すべき事柄が伏在していることを指摘したことがあります。そして、精細な発掘調査を踏まえた良好な資料を蓄積すべきことも提言しました。

土器付着炭化物はもとより、クルミ殻、炭化木片であっても、放射性炭素年代測定値を用いた高精度編年は、いますこし再検討の余地があるようです。

対雁2遺跡の発掘報告書は当センターの図書コーナーに置いてあり、（財）北海道埋蔵文化財センターは、この3月までに257冊の報告書を刊行しています。北海道内における膨大な発掘成果が、専門家のみならず多くの方々によって利用されるよう願っています。

（第2調査部長 西田 茂）

引用文献 西田 茂 「ふたたび年代測定値への疑問」『考古学研究』第51巻第1号 2004年6月
 北埋調報226『江別市対雁2遺跡（7）』2006年3月
 北埋調報231『江別市対雁2遺跡（8）』2006年11月
 北埋調報240『江別市対雁2遺跡（9）』2007年3月

測定番号	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)
PLD-4232	2535±20
PLD-4233	2520±20
PLD-4234	2510±20
PLD-4235	2490±20
PLD-4236	2505±20
PLD-4237	2515±20
PLD-4238	2500±20
PLD-4239	2515±20
PLD-4240	2535±20
PLD-4241	2540±20
PLD-4242	2560±20
PLD-4243	2515±20
PLD-4244	2530±20
PLD-4245	2495±20
PLD-4246	2490±20
PLD-4247	2520±25
PLD-4248	2500±25
PLD-4249	2540±25
PLD-4250	2505±20
PLD-4251	2540±25

表1 江別市対雁2遺跡 P-179（クルミ20個）

測定番号	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)
PLD-4252	2520±20
PLD-4253	2530±25
PLD-4254	2520±20
PLD-4255	2530±20
PLD-4256	2510±20
PLD-4257	2540±20
PLD-4258	2540±25
PLD-4259	2505±20
PLD-4260	2555±20
PLD-4261	2510±20
PLD-4262	2555±20
PLD-4263	2520±20
PLD-4264	2525±20
PLD-4265	2520±20
PLD-4266	2510±20
PLD-4267	2545±20
PLD-4268	2495±20
PLD-4269	2525±20
PLD-4270	2495±20
PLD-4271	2515±25

表2 江別市対雁2遺跡 P-179（1個のクルミを20分割）

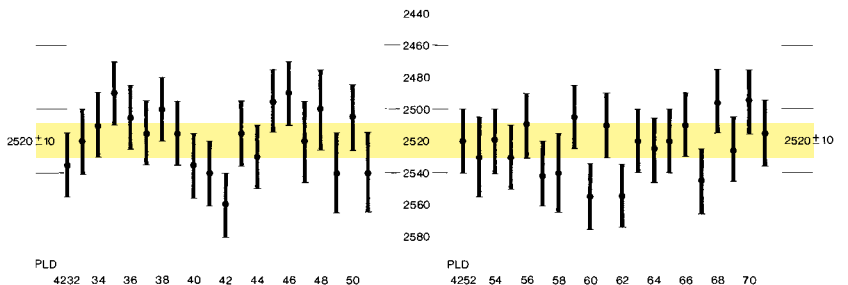


図1 対雁2遺跡、P-179（クルミ20個）

図2 対雁2遺跡、P-179（1個のクルミを20分割）

◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス（文教通西循環線）・夕鉄バス（文京台南町行）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「北翔大・札幌学院大前」下車、徒歩15分

